

日本液体微粒化学会誌『微粒化』執筆要項

1. 記事の種類とそのページ数

記事の種類とその内容ならびにページ数は「投稿規定」に示す通りである。

2. 用紙

2.1 A4 版の用紙を使用し、「投稿原稿割付見本」の様式により図表などを割付け（レイアウト）・挿入して提出する。ただし、挿入した図表は鮮明でなければならない。なお、原稿用紙は 1 ページが 28 字×55 行×2 段=3080 字相当で、会誌の刷上がり 1 ページに相当する。

2.2 割付けの方法

原稿の題名、著者名、英文摘要、本文、図表等の割付けは、毎号会誌に掲載されている「投稿原稿割付見本」による。

3. 原稿

3.1 表紙

毎号の会誌に掲載されている「原稿表紙」に必要な事項を記入する。

3.2 原稿の構成

記事の種類別による書式一覧は表 1 に示す通りである。

(1)論説、随想、解説、技術資料の原稿の構成は次のようにする。

表題、著者の氏名および著者の所属、英文表題、著者の氏名の英語表示および著者の所属の英語表示、本文

(2)論文の原稿の構成は次のようにする。

表題、著者の氏名および著者の所属、英文表題、著者の氏名の英語表示および著者の所属の英語表示、英文アブストラクト（300 語以内）、英語表示のキーワード（5～10 語）、本文

(3)会員の窓、会告、その他の原稿の構成は次のようにする。

表題、著者の氏名、本文

(4)原稿受付日は原稿用紙第 1 ページ左欄下段に記入する。

3.3 本文

(1)本文（図、表および写真の説明を含む）は、読者にその内容が分かりやすく、正しく理解できるような表現を使用する。

(2)本文は原則として日本語で記述し、簡潔な口語

体とし、常用漢字および現代かなづかいを用いる。
(3)本文は、適宜区分して見出しを付け、読みやすくする。見出しの番号は次の例による。

章	1.	2.
節	1.1	1.2
項	1.1.1	1.1.2

3.4 文字および用語

(1)文章の区切りには、読点（、）や句点（。）を用い、それぞれ 1 字分とする。また、同格の単言音を並べる場合は、中点（・）を使用する。

(2)図表中の文字・数字・記号に限り、幾分小さくなくてもやむを得ないが、刷上がりで十分読める大きさにする。

(3)用語は、原則として文部科学省編「学術用語集」または「JIS 用語集」に従う。また、特殊用語は、注（*1、*2…、上付き）を該当個所に付け、その原稿用紙の下の方に脚注を付けるか、対応する外国語を該当個所のあとに（ ）付きで示す。

(4)略語を使用する場合は、普通名詞、固有名詞にかかわらず、原語で記載する。また、一般に周知されていない略語を使用する場合には、最初に使用した箇所で正確な原語を付記する。

3.5 数字および数式

(1)量や序数を表す数字はアラビア数字を使用し、漢字と結合して名称や概数を表す場合は漢数字を使用する。

[例] 10m, 図 1, 表 12, 第 4 章

三角形, 数百例, 二, 三の例

(2)小数点および桁区切り

小数点は、0.123, 桁区切りは、456789 などのように書き、.123 や 456,789 のようには書かない。

(3)数式を本文中に書く場合は、下記の形式 A のように、1 行におさまる表記法を用いる。行を改めて数式だけを書く場合には、出来るだけ形式 B を使用する。また、必要に応じて式番号を付ける。

形式 A	形式 B
$(a+b)/(c+d)$	$\frac{a+b}{c+d}$

(4)本文中に式番号を記載するときは、式(1),式(2)…のように書く。

3.6 単位・量・数学・化学記号

(1)単位・量記号

単位および量記号は、SIによる。

(2) 数学記号

数学記号は、「JIS Z8201」(数学記号)による。

(3) 化学記号

化学記号は万国化学記号による。

3.7 図(写真を含む)および表

- (1) 論文の場合の図題、表題は英語で記述する。また、図番および表番は、それぞれ Fig. 1, Fig. 2, …および Table 1, Table 2, …のように通し番号として、ゴシック体で表記する。本文で引用するときは図 1, 図 2…、表 1, 表 2…とする。
- (2) 論文の場合の図・表の内容は全て英語とする。
- (3) 図番および図題は図の下部に、表番および表題は表の上部に書く。
- (4) 図の描き方は、原則として「JIS B (全角ではなく、半角空ける?) 0001」および「JIS Z 8301」による。
- (5) 提出された図は、そのまま写真製版して印刷するので、線の太さ、文字の大きさなどに注意して、原則白黒で作成する。
- (6) 不鮮明な図表に対しては、本会から再提出を指示することがある。
- (7) 写真は図に準じ、原則として白黒とし、明瞭なものでなければならない。不鮮明な写真に対しては、本会から再提出を指示することがある。写真の図番は、他の図と一連番号とする。
- (8) カラー写真・図表の掲載を希望する場合は、掲載料とは別に実費を徴収する。
- (9) 表(図を含む表も含む)は、そのまま写真製版して印刷するので上記(5)に準ずる。

3.8 文献

- (1) 著作権については、著者が責任を持って対処する。
- (2) 本文中の引用文献の記載方法は、通し番号をつけ本文の該当箇所に上付き添字^①または^②、^③あるいは^④~^⑧のように示し、本文の末尾に文献としてまとめて記載する。
- (3) 雑誌の場合の記載方法は次のようにする。著者名、題名、雑誌名、巻、号(西暦発行年)、始めおよび終わりのページの順に記載し、著者名は連名者も含めて全員の姓名(フルネーム)を記載する。
[例]
 - (1) 京都太郎, 仙台次郎: 液化ブタン噴霧の特性, 微粒化, 10-5 (2000), 145 - 148.
 - (2) John, R., Schmidt, P., Thompson, G. : Characteristics of Spray Injected through Hole Nozzle, J. Atomization, 11-2 (2001), 28-30.
- (4) 書籍の場合の記載方法は次のようにする。
著者名, 書籍名, 発行所(西暦発行年), 始めお

および終わりのページの順に記載する。

[例]

- (1) 今出川一郎: 微粒化機器の設計, 京都書籍(1995), 79-82.
- (2) Smith, T. : Mechanism of Atomization, London Pub. Inc., (1991), 34-39.

4. 原稿の提出

- (1) 論文の最初の投稿時に必要な提出物は表 2 の通りである。
- (2) 掲載可の論文ならびにその他の記事は、原則として提出された最終原稿をオフセット印刷する。最終原稿は、著者の責任において「投稿原稿割付見本」の書式に従ってワードプロセッサ等で作成し、原稿の印刷結果もしくは pdf ファイルを記録した電子媒体を提出する。
- (3) 会員の窓と会告を除く各記事では、著者全員の略歴と写真を原稿末尾に示す。上記(2)の手続きの際に「投稿原稿割付見本」の書式に従って略歴欄を作成し、最終原稿の末尾に割付・挿入して提出する。写真は背景のないものが望ましい。原稿の印刷結果に写真を貼り付ける場合には、各写真の裏にそれぞれ氏名・所属を記入する。

5. 適用期日

本執筆要項は原稿受付日が 2011 年 10 月 3 日以降の投稿から通用する。

6. 要項の改廃

当要項の改廃は理事会の承認を必要とする。

表 1. 記事の種別による書式一覧

記事の種別	英文 アブストラクト	英語表示の キーワード	図表の題名と 説明文	著者の写真と 略歴
論文	要	要	英語	要
論説, 随想, 解説, 技術資料	不要	不要	日本語	要
会員の窓, 会告, その他	不要	不要	日本語	不要

表 2. 投稿時に必要な提出物

記事の種別	表紙	原稿	質問と回答	写真と略歴
論文の最初の投稿	要	A4 版コピー4 部 もしくは電子媒体	不要	不要
再校閲用の論文の 提出	不要	A4 版コピー4 部 もしくは電子媒体	4 部もしくは電 子媒体	不要
論文の最終の原稿	不要	A4 版原本 1 部 A4 版コピー1 部 もしくは電子媒体	不要	要
論説, 随想, 解説, 技術資料	要	A4 版原本 1 部 A4 版コピー1 部 もしくは電子媒体		要
会員の窓, 会告, その他	要	A4 版原本 1 部 A4 版コピー1 部 もしくは電子媒体		不要